

<運営推進会議における評価>

【事業所概要】

法人名	有限会社 在宅ナースの会	事業所名	複合型サービスふくふく 寺前
所在地	(〒236-0014) 横浜市金沢区寺前 2-5-38		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

- ・ 住み慣れた地域でご本人、ご家族の意向や希望を尊重した生活が送れるよう全職員が意識し支援していきます
- ・ 医療ニーズの高い方や退院直後の方に効果的なサービスの提供を行い、様々な病状や状態であっても在宅療養を総合的に支援します
- ・ 24 時間 365 日臨機応変・迅速・柔軟なサービスで在宅生活の支援を行います
- ・ 地域との連携・協議・共存を目指し、看多機が存在意義が地域に根付くよう努力していきます
- ・ 十分な感染防止対策を実施し、サービスの提供が止まることなく継続できるよう感染予防防止策を徹底します
- ・ 職員研修や、外部研修、オンライン研修等を通して知識や技術の向上に努めると共に自主研修にも積極的に参加します

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2022 年 12 月 17 日	従業者等自己評価 実施人数	(20) 人	※管理者を含む
----------------	---------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2023 年 3 月 9 日	出席人数（合計）	(9) 人	※自事業所職員を含む
出席者（内訳）	☒ 自事業所職員 (3 人) ☐ 市町村職員 (0 人) ☒ 地域包括支援センター職員 (1 人) ☒ 地域住民の代表者 (2 人) ☒ 利用者 (1 人) ☒ 利用者の家族 (1 人) ☒ 知見を有する者 (1 人) ☐ その他 (人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目		前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
Ⅰ. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)		①サービスの質の向上ができるよう努力し、個々に年間計画を立てる ②職員間の情報共有や意見の提示が迅速かつ円滑に行えるようにする ③心身共に休まる休憩時間と場所の提供づくりに努力する ④災害時、緊急時にもサービス提供ができるための高い意識と対策の構築	① 年度初めに個別面接を実施し個々の年間計画取り組みについて話し合った。日々実施しているサービスの質や人材育成、処遇改善についてまとめ「かながわベスト介護セレクト 20」に選出された。 ② 介護スタッフだけでなくドライバーもミーティングノートに目を配ることが習慣化されている。 ③ 休憩時間を担当表に記入しや休憩が取りやすいような時間配分を行った ④ 防災訓練のシュミレーションを繰り返し行い災害時や緊急時も行動できるように防災委員会を中心に準備を行った。	① 自己目標を設定することで1年後の自分をイメージし計画的に取り組めたスタッフもいた。計画達成に差があり取り組み方法や意識の差については今後の課題となった。「かながわベスト介護セレクト 20」に選出されモチベーションや質の向上を目指す機会となった ② ミーティングノートに眼を配っているかの声掛けをした結果である。会議等の報告がタイムリーに行えるよう努力が必要。 ③ 利用者の状況で休憩に入る時間を工夫し努力している ④ 町内の防災訓練に参加し、近隣住民との共同を思考する機会となった。 年 2 回の防災訓練に加え日常の中でも訓練する機会を持ち BCP 策定に向け取り組みを進めていく必要がある
Ⅱ. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	①日々利用者・家族とコミュニケーションを円滑に取るによりきめ細やかな対応ができ小さな変化にも対応できるサービスの提供を目指す ②利用者家族が利用内容を理解し、安心して利用できるようわかりやすく説明する	① 利用者・家族の状況はタイムリーに多職種で情報共有し個々の状況に応じた対応ができている。 ② 利用者家族が理解できるよう、具体的な事例を用いてわかりやすく説明を行っている	① きめ細やかな対応により、在宅介護に不安がある家族も安心して利用ができている。退院時に在宅生活は難しいと判断された方も、看護や介護のサービス提供で在宅生活が送れるようになっている。 ② 見学の際に十分な説明を実施している

		③将来起きうる多様なリスクを想定しそ の方の望む暮らし方に添えるよう ACP の活用を継続する	③ ACP を利用することで今後起き うるリスクや変化に対するイメージ作り ができ、互いに共有することができた	③ ACP 用紙の活用により情報の幅が 広がり記録に残しことで、職員全員で共有 することができている。
	2. 多機関・多 職種との連携 (評価項目 28 ～31)	①多職種との連携により利用者を中心と したサービスの提供が円滑に行えるよう にする ②緊急体制の対応について医療機関と連 携し全職員が対応可能な体制づくりをす る	① 多職種が持つ特殊性を最大限発 揮できるよう意識した ②緊急時の対応で重要となるものは利用 者ファイルにわかりやすいように明記 し、変化があった際は日々のミーティン グ内で伝達し記録に残している	① 当事業所の利用に繋がらなくても 様々なサービス紹介や提案ができてお り、地域の中での役割が果たせている ② 情報を共有し、全職員が対応可能な 状態を構築している。新型コロナウイル ス感染症についても、タイムリーな情報 共有が最も重要な為、事業所での対応策 について統一した対応ができるよう留意 した
	3. 誰でも安心 して暮らせる まちづくりへ の参画(評価項 目 32～41)	①喀痰吸引・人工呼吸器管理・看取り・難 病の方等専門的なサービスが必要な利用 者の受け入れができる体制を維持する ②定期的な研修を断続的に行い職員の質 の向上に努める	① 資格習得研修に積極的に参加を 促し専門的知識の向上に努めている ② 研修委員会の年間計画に基づき研修 を行っている。インターネットツールを 活用し参加しやすい体制を整えた	① 資格習得後も OJT で実践を通して研 修し自信を持ってサービスの提供ができ ようになっている ②社内研修によりサービスの重要性、事業 所の位置付けが理解できるようになって いる
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)		医療依存度の高い方、終末期の方、認知 症の方が地域で安心して在宅生活を送れ るよう地域の各関係機関とのかかわりを 密にとり、総合的に支援した。	医療依存度が高い方でも安心して利用で きるよう専門的知識の向上を図ってい る。各専門性を生かすだけではなく職域 範囲で行えることを実施していく。感染 症対策は引き続き実施し各関係機関との 連携を取りタイムリーな対応ができるよ う対応した	感染対策に留意しながらサービスの提供 が止まることなく行えた。各関係機関と連 携を取りながらどのような状態の方でも 住み慣れた地域で最期まで生活すること を支援できる事業所を運営している

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目		評価結果	改善計画
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)		① 受持ち担当制を導入し個々に目標設定が徐々になつた。「かながわベスト介護セレクト 20」に選出されたことがスタッフのモチベーションや質の向上への一助となった ② 職員間の情報共有・提供が迅速かつ円滑に行えるよう継続し報告がタイムリーに行えるように努力する ③ 心身共に休まる休憩時間の確保と場所の提供つくり努力した ④ 町内の行事にも参加し近隣住民との共同を思考する機会となった。災害時、緊急時にもサービスが提供できる対応策を実施した	① 年間目標・計画を基により良いサービスの提供ができるよう努力する。受け持ち担当制での関わりを意識的に行い、個別性のある支援が計画的に行える ② 会議等の情報がタイムリーに伝わるよう回覧方法を検討する。情報の集約、共有が迅速に行えるシステムづくりを実施する ③ 心身ともに休まる時間の確保と場所づくりの提供 ④BCP 策定取り組み、マニュアルの準備
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	① 在宅介護や医療処置のある利用者も看護・介護両職種のサービス提供でき、在宅生活が送れるような支援ができている ② 利用にあたり見学の機会を用いてサービスの趣旨及びサービス計画の内容を利用者・家族にわかりやすく説明し理解していただいている ③ ACP 用紙の活用により情報の幅が広がり職員全員で共有することができている	① 看護職・介護職の円滑なコミュニケーションが図れることにより、利用者・家族にきめ細やかな対応ができ、小さな変化にも対応できるサービス提供を目指す ② 利用者・家族が利用内容を理解し、安心して利用できるようわかりやすく説明する ③ ACP 活用で予後予測への考えを共有しあうことで安心して利用でき、意見しやすい環境をつくる
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	① 多職種が持つ特殊性を最大限発揮し多様な連携支援ができている ② 全職員が対応可能な状態を構築し、統一した対応ができるよ	① 主治医、薬剤師、理学療法士、訪問看護ステーション等多種多様な支援ができるように連携を密にする ② すべての利用者の緊急対策を医療機関と連携し、希望に沿った対応ができるよう体制づくりを行う

		う医療機関と連携できている	
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	① 資格習得後も実践を通して研修し自信を持ってサービスの提供ができるよう支援できている ② 社内研修によりサービスの重要性、事業所の位置付けが理解できるようになっている ③ 人工呼吸器・終末期の受け入れができる体制を維持し、積極的に受け入れができている	① 喀痰吸引や認知症研修など専門的な資格の習得ができるよう支援する ② 組織力強化のために個々の研修計画を立て人材育成を行っていく ③ 進行性難病・人工呼吸器・終末期の専門的なサービスが必要な利用者の受け入れができる体制を維持し受け入れを行っていく
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)		感染対策に留意しながらサービスの提供が止まることなく行えた。各関係機関と連携を取りながらどのような状態の方でも住み慣れた地域で最期まで生活することを支援できる事業所として最善の支援を提供している	どのような状態の方も住み慣れた地域で生活を継続できる体制を維持し、質の高いサービスの提供を行う。感染予防対策を継続し、サービスの提供が止まることが無いよう努力する

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

評価表〔従業者等自己評価〕

番号	評価項目	従業者等自己評価				評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりでき ていない	全く できていな い	
Ⅰ 事業運営の評価【適切な事業運営】						
(1) 理念等の明確化						
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践						
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている	1 3	3	1		利用者が安心して過ごすことができるよう日頃から生活機能の維持・回復を目指し、意欲の出る居心地の良い場所づくりを理念に挙げている
		【具体的な状況・取組内容】				
		医療ニーズの高い方の受け入れし、家族の負担軽減も図っている。 無理なく在宅生活が送れるように支援できている。 在宅生活を継続する理念を掲げている				

番号	評価項目	従業者等自己評価				評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりでき ていない	全く できていな い	
		① ②④に関しては特に力を入れ地域に貢献している。 御利用者様や家族にできる限り寄り添えるケアが出来ていると思う。 ④家族の要望をできる範囲で実行している。				
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している	10	6			・理念を廊下や事務所に掲げることにより職員全員が意識し、実践できるようになっている ・居心地の良い挨拶を心掛け、おもてなしの精神で対応している
(2) 人材の育成						
① 専門技術の向上のための取組						
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している	7	6	1		・年度初めに年間個人目標を立案し、管理者と面接を実施している
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 育成計画を作成しているが分からない。 年度初めに管理者が個別に面談を行い個人の目標設定と一緒に立て、計画的に育成している。				

番号	評価項目	従業者等自己評価				評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき て い る	おおよそ できている	あまりでき ていない	全く できていな い	
		自己目標に対し本人の意欲をサポート出来 ていると思う。				
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を 育成計画等に基づいて確保する など、職員の専門技術の向上の ための日常業務以外での機会を 確保している	1 2	2			・子供が小さく夜の外出が難しい方や、休みで自宅が遠いなどの理由で集合研修に参加できなかった職員も、ZOOM 配信を利用し研修に参加することが可能となった ・社外研修情報を伝え自主的に参加できるようになっている
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保						
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門 員の間で、職員が相互に情報を 共有する機会が、確保されてい る	9	4			・ミーティングを活用し重要な事柄から、連絡事項まで有意義な内容で情報共有ができています ・事件事例検討、KYT も実施している
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 毎日、ミーティングを行っている。 参加できない時でも記録を見る事で情報の共有が出来ている。 問題があがった時には話し合い改善に向けて共有している。 具体的なケースがある場合にはカンファレンスを行っている。				

番号	評価項目	従業者等自己評価				評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりでき ていない	全く できていな い	
(3) 組織体制の構築						
① 運営推進会議で得られた意見等の反映						
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている	6	7	1		・ 会議内容はホームページや会議録等にあるが職員への浸透が薄い アナウンス方法あり方が必要
		[具体的な状況・取組内容] 会議の記録は時間が経過してから見る事になるのでタイムリーな情報ではない。 話し合われた内容については翌朝のミーティングで伝え共有している。またその内容についてはサービスの質を振り返る材料に活用している。				
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備						
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている	7	9			・ 体調不良の際は無理せず自宅待機するよう働きかけている スタッフ不足で疲労が蓄積していないか体調確認を行っている ・ イベント日などに休憩できていないことが多いため人員の確保や、配慮が必要 ・ 新型コロナウイルス感染症や、濃厚接触者該当による自宅待機期間の人員確保に苦慮した
		[具体的な状況・取組内容] スタッフ間での協力があり、助け合っている。また労働時間の配慮も常に気にかけている。 昼の休憩時間を確保出来るように時間をずらして休憩を取っている。 有給休暇の取得があまり出来ていない。				

番号	評価項目	従業者等自己評価				評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりでき ていない	全く できていな い	
		管理者の配慮により体調不良の際は無理せず休める体制が出来き、利用者様の人数で職員人数の調整をしている。 コロナ等で人員不足の中でも職員に負担のない配慮を感じる。				
(4) 情報提供・共有のための基盤整備						
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備						
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	10	7	1		・ミーティングに参加できなかったスタッフにも情報が伝達できるように声掛けを行っている ・送迎スタッフが得た情報もタイムリーに伝達できるようにしている
[具体的な状況・取組内容] 朝のミーティングの時間と記録により情報の変化等に迅速に情報共有出来るようにしている。 分からない事はスタッフ同士確認をしている。 家族より体調の変化があると伝達があった時は報告している。						
(5) 安全管理の徹底						
① 各種の事故に対する安全管理						

番号	評価項目	従業者等自己評価				評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりでき ていない	全く できていな い	
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	8	9			・事故、ヒヤリハット事例は迅速に検討会を行うようにしている ・事故事例を基に KYT（危険予知トレーニング）を実施し再発防止に努めている
② 災害等の緊急時の体制の構築						
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている	8	6	2		・定期的な防災訓練を行うことにより災害時の対応が身につくようにしている ・各事業所に防災委員がおり、非常用物品や食料等の確認点検を行っている。医療材料も災害時にすぐに対応できるように整備した。 ・町内の防災訓練に参加し町内での事業所の役割の確認が行えた ・事業所に緊急連絡先が掲示してある
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 研修、ミーティングでの話し合い、事故などの対応もその後に話し合いができ問題点や対策など考えている。 各事業所の事故報告やヒヤリハットも共有出来ており、具体的な対策が講じられている。 個人情報保護ではご利用者様ファイルは鍵のかかる書庫に保管している。 感染対策について 考えうる危険予測、同じ危険を繰り返さないよう危険予知トレーニングも行っている。 急発進、急停止を厳禁で運転している。				

番号	評価項目	従業者等自己評価				評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりでき ていない	全く できていな い	
		防災訓練後、反省点を話し合い対応方針の更新もされている。				
Ⅱ サービス提供等の評価						
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供						
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成						
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施						
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている	8	7			・介護力や家族の就業状況に応じて宿泊のみならず、夕食後の送迎など個々の対応を行っている ・家族と話す機会も多いことから情報収集しやすく、その情報をスタッフと共有できている
		[具体的な状況・取組内容] 家族との関わりで情報を得る。 宿泊者の夜間の情報を共有。 ケアマネージャーが中心となり家族も含めた 2 4 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われているが全てのご利用者様ではない。 介護職も積極的に訪問に携わる体制がある。				
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている	7	7			・介護と看護職のコミュニケーションが良好に取れている。サービス提供管理責任者を中心とした風通しの良い環境ができている
		[具体的な状況・取組内容] 看護・介護の意見交換にて共有。 両職種の視点での話し合い、意見交換が行われている。 受け持ち制を導入した事で同じ視点でアセスメントの視点で繋がったと思われる。				

番号	評価項目	従業者等自己評価				評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりでき ていない	全く できていな い	
		それぞれの思いや考えを尊重し目標を合わせている。				
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成						
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている	8	6			・ 個々のファイルが作成されており見直しも行われている
		[具体的な状況・取組内容] 入浴の順番を調整し、できる限り希望に沿っている。 家族の意見を受け入れ対応できている。 ケアプランの中に作成されている。 目標支援については不足している。 御利用者様と家族が望んでいる事の違いはあると思うがお互いの意見を含め計画作成されている。				
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている	7	7			・ 生活リハビリでの日々の積み重ねにより機能維持向上に役立っている
		[具体的な状況・取組内容] 能力を最大限に活かした取り組みが出来ていると思う。 ケアプランの中に作成されている。 毎日の生活の中で楽しみ意欲を引き出し生活のQOLが向上しさらにADLの向上へと目指す計画が作成されている。				

番号	評価項目	従業者等自己評価				評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりでき ていない	全く できていな い	
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成						
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている	6	8			・状況変化とリスク管理は日常的に行い、家族・主治医にタイムリーに変化を伝え急な変化への対応ができるよう準備を行っている
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 家族との情報提供を行い計画制作。 状態悪化に伴うリスク管理には家族との情報提供を充分に行っている。 日々変化する体調を看護師が管理し、介護職に情報交換が来ている。 御利用者様の状態、家族の介護力を想定しリスクに柔軟に対応出来るよう計画している。				
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践						
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映						
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている	7	7			・日々の関わりの中での変化に留意し、看護職や介護職に申し送りを行っている。病状の変化により計画が変更される際は、再度計画の立案を行っている
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 日々の関わりの中で状況変化があった時には適宜反映させている。 ケアマネージャーが定期的に計画のモニタリングを行っている。				
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映						
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を	8	6			・送迎時に1日の様子を伝えるとともに、自宅での状態を聞き取り家庭での状況を把握するように努めている
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u>				

番号	評価項目	従業者等自己評価				評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりでき ていない	全く できていな い	
	含めた居宅での生活状況の変化 を継続的に把握している	送迎、訪問等での家庭の様子など、その都度 報告している。 送迎時にケアマネージャー、看護師が訪問し 家族より生活状況の変化等を伺い把握に努 めている。 自宅での体調不良時には緊急訪問を行いケ ア実施している。また介護職はオムツ交換や 服薬確認の訪問を行っている。 状況に応じて柔軟な対応が出来ている。				
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有						
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成 状況等について、主治医など、 事業所内外を含む関係多職種と 情報が共有されている	7	7			・利用者家族の希望に添えるよう調整を行い、多職種での情報共有に努め ている
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 状況変化などは主治医を含めたサービス提 供者と情報共有している。 往診医が訪問の際には看護師が必ず同席し ている。 看護師が中心となり多方面からの情報共有 に努めている。				
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供						
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供						
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専 門性を最大限に活かしながら、 柔軟な役割分担が行われている	1 4	1			・職域範囲で役割分担しお互いに協力しあいサービスの提供に努めている ・介護職が専門的な研修を受けることによりサービス提供が可能となってい る
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u>				

番号	評価項目	従業者等自己評価				評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりでき ていない	全く できていな い	
		それぞれの専門性を活かし意見交換し柔軟な役割分担が出来ている。 医療ニーズの高いベッド上で過ごされる方は看護職がケアを提供している。 各専門性を活かすだけではなく職域範囲で行えることを行っている。 看護は医療の視点から、介護は生活の支援を行っている。				
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている	1 2	3			・声をかけやすい環境づくりが行えている
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 朝のミーティングの機会での情報共有を行い対応策の検討を心がけている。 業務中であっても情報共有をしている。				
② 看護職から介護職への情報提供および提案						
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている	1 0	4			・医療的ケアについてはわかりやすい言葉で説明を行い、予後を含めた対応策の提案を行っている
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 看護職より申し送りがあり、介護職も解らない事は確認している。 体調の変化や病状の予後、予測も含め情報提供をいただいている。				
(4)利用者等との情報及び意識の共有						

番号	評価項目	従業者等自己評価				評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりでき ていない	全く できていな い	
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供						
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	10	5			・ 具体的なケアプランを見ていただき、具体的なイメージができるように説明を行っている。様々な利用方法があることを提案し理解していただいている
[具体的な状況・取組内容] ミーティングでスタッフ間共有。 重度の御利用者様もいるため、意思の確認は難しい。 見学時によく説明している。 見学後に家族が不安にならないように電話でも対応を多くしている。						
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明						
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	8	6			・ 納得していただけるまで丁寧な説明を行い同意を得ている
[具体的な状況・取組内容] 看護職が指導説明を行っている。 重度の御利用者様もいるため、意思の確認は難しい。 自宅、通所で行う内容を分かりやすく説明し在宅生活が継続できるように支援している。 すぐに相談出来る対応をしている。						
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	11	3			・ 退院直後は特に不安が多く、看護師が説明したり訪問を行う事で不安の軽減が行えている ・ 必要時議場所に来所していただき指導を実施している
[具体的な状況・取組内容] 看護職が家族に分かりやすく説明し、理解できるまで指導している。						

番号	評価項目	従業者等自己評価				評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりでき ていない	全く できていな い	
		看護師が在宅に訪問し医療機器の取り扱い方法、ケアの方法を家族に説明し理解を得ている。不安な訴えや要望があれば何度でも訪問し、指導を行っている。				
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有						
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	1 3	1			・点滴の実施や、胃ろうへの対応など主治医、家族を含めて相談し家族や本人が選択できるようにしている
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 日々の接する中で将来的な事を聞き検討。 在宅生活維持の為の意向を確認しサービスを提供している。 終末期には泊まりサービスを利用し家族の不安を和らげる等している。 日々の様子についてもよく観察し希望、意向に沿えるサービスを提供している。				
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができる	1 0	4			・利用者家族との連携を絶えず行い、今後起きうることへの予測・相談・検討しやすい環境づくりをしている
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 日々の接する中で将来的な事を聞き対応策を検討。 日々の体調変化等の把握に努めご家族も含めたリスクを想定した対策を行っている。				

番号	評価項目	従業者等自己評価				評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりでき ていない	全く できていな い	
		病院からの情報、家族の思いを十分に聞き取りしている。				
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	12	2			・ 家族や本人の希望を尊重し、悔いのないよう十分な説明を行っている。 主治医とも連携を取り対応している
[具体的な状況・取組内容] 主治医により ご家族に説明をしていただき、家族の意向を明確に記録に残し、病状の経過等の理解は得ている。 主治医と連携し対応出来ている。						
2. 多機関・多職種との連携						
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供						
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行						
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	12	2			・ 主治医、薬剤師との連携は常に行っており、在宅生活への不安が内容にきめ細やかに対応している
[具体的な状況・取組内容] 退院前のカンファレンスにケアマネージャー、看護師が参加し退院後の支援をスムーズに出来るようにしている。						
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有						
29	○ すべての利用者について、緊急	5	9			・ すべての利用者への訪問看護指示書をいただき、毎月報告書を提出し連

番号	評価項目	従業者等自己評価				評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりでき ていない	全く できていな い	
	時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている					携を図っている
		<u>〔具体的な状況・取組内容〕</u> 体調不良時、緊急往診も含め対応方針の相談をしている。 医師・家族と話し合い共有できている。 ケアマネージャー、看護師が中心となり主治医等と相談、共有が出来ている。				
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築						
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	9	5			・ ・ 状態変化が予測される場合は早めの対応をとるようにしている
		<u>〔具体的な状況・取組内容〕</u> 24時間急変時に即座に対応できる体制が出来ている。 往診を利用している方は休日、夜間の対応が可能な体制が構築されているが、それ以外の方の急変時の対応は構築されていない。 病院によって休日や夜間対応が難しい場合がある。 365日24時間医療機関との連携がとれる体制が出来ている。 緊急時には医師と連絡し指示を頂ける体制をとっている。				
(2) 多職種との連携体制の構築						

番号	評価項目	従業者等自己評価				評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりでき ていない	全く できていな い	
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討						
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている	1 2	3			・ 包括支援センター職員、町内会会長、民生委員などの方々に参加していただき様々な情報共有が行われている
<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 2ヶ月に1回実施している。 事業所内の活動報告を行い、地域の方たちの情報提供が行われている。 定期的な会議で共有出来ている。						
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画						
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案						
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信						
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている	1 0	3	1		・ ・会議後はすぐに報告書を作成すファイリングしている。翌日のミーティングで会議の内容を報告している
<u>【具体的な状況・取組内容】</u> いつでも閲覧出来るようファイルしている。 会議の記録はあるが、迅速に行われているとはいえない。 ホームページにも載せている。						
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている	4	5	5		・ 参加できる町内行事には積極的に参加している
<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 地域の行事に参加している。 積極的な啓発活動は行っていない。 コロナの為。 正しいサービスの理解を広めるため、パンフレットと料金表を合わせ近隣住民へ配布し						

番号	評価項目	従業者等自己評価				評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりでき ていない	全く できていな い	
		た。横浜市の講演会にも参加し啓発活動を行っている。				
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮						
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供						
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している	2	2	4	5	・地域住民からの依頼は積極的に受けていきたいが、看護体制が事業所利用者以外に対応困難であるため実現が難しい
		[具体的な状況・取組内容] 登録者以外を対象とした訪問看護は実施していない。 近隣住民より依頼があれば可能な限り訪問看護を行っている。				
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ						
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	14				・医療依存度が高い方に対しても対応可能なスタッフがそろっている ・吸引器は十分な数を用意し対応できるようにしている
		[具体的な状況・取組内容] 研修を受けた職員がいる。 夜間帯も資格をもった介護職員がケアしている。 資格をもち実施し、受け入れ体制も出来ている。 法人として研修受講を実施している。				
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができ	12	2			・看護師の同行により安全面にも配慮した対応ができている ・リスク管理について十分に話し合いが行われている

番号	評価項目	従業者等自己評価				評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりでき ていない	全く できていな い	
	る体制が整っており、積極的に受け入れている	[具体的な状況・取組内容] 呼吸器を必要とする利用者様、家族、スタッフに説明あり。 勉強会を開催し操作方法を学んだ。夜間帯も看護師のサポートを受けてケアしている。 呼吸器を使用する前に業者による手技がある				
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	13	1			・看取りに対する意識が高く、看護小規模多機能居宅介護の役割を理解している ・主治医、看護、介護の連携が取れる体制にあり積極的に受け入れを行っている
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画						
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解						
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している	6	7	1		・スタッフの知識や認識の差があり、重要性を伝達していく必要性がある
		[具体的な状況・取組内容] 地域包括システムの構築方針や計画の内容について理解が乏しい。 地域包括ケアシステムの役割を十分に理解している。				

番号	評価項目	従業者等自己評価				評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりでき ていない	全く できていな い	
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開						
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	1 2	2			・ 金沢区全域でのサービス提供を行っている
		[具体的な状況・取組内容] サービスできるエリアの中で限定せず積極的に提供している。 金沢区内の送迎が可能な範囲の方に御利用いただいている。 十分なサービスが提供できると思われる場合は区外であっても積極的にサービスを提供している。				
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等						
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている	5	8	1		・ 運営推進会議の場を通じて問題や課題を話しあう機会がある
		[具体的な状況・取組内容] 地域の課題や改善策の提案はあまり出来ていないと感じる。 高齢者が多い地域の為、民生委員さんとも協力出来ている。 病院、地域からの問い合わせに対して必要に応じて支援を行っている。時にはネットワークを活用し保険外サービスやインフォーマルサービスの充実、活用の提案を行っている。				
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上の	4	10			・ 利用者家族への手技の確認・相談が行われている

番号	評価項目	従業者等自己評価				評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない	
	ための具体的な取組等が行われている	[具体的な状況・取組内容] 様々なサービスを利用。 家族には訪問時に看護師、介護職員が方法などのアドバイスをしている。 近隣住民には取り組まれていない。 在宅生活が維持できるように継続的に指導し、環境を整えている。 家族の介護技術指導を継続的に行っている。				

番号	評価項目	実施状況	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価			
①計画目標の達成			
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない [具体的な状況・取組内容] 全ての利用者様の計画目標は達成されていない。 医療依存度が高い方であっても住み慣れた在宅での生活の継続を支援できている。 寄り添った計画目標がたてられている。	・利用者、家族の状態に応じて柔軟に計画やプラン変更できおり目標に向かって支援できるよう努力している

番号	評価項目	実施状況	評価の視点・ 評価にあたっての補足
②在宅での療養生活の継続に対する安心感			
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない [具体的な状況・取組内容] 看護師が在宅に訪問しケアをする事によって安心感が得られる。 困りごととも相談でき家族だけで抱え込まずに在宅生活維持につながる。 胃瘻・気管カニューレ・呼吸器・バルン・酸素使用の方の医療処置が高い方でも看護・介護の協力の下在宅生活が支援できている。	・医療ニーズが高い方でも安心して在宅生活が行えるよう支援している
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない 5. 看取りの希望者はいない [具体的な状況・取組内容] ご家族の不安感について一緒に考えサービスを提供することにより安心感が得られる。 宿泊サービスを利用する事で看取りケアを継続する事が出来る。	・自宅にいるような雰囲気の中で安心して過ごせるように努めている ・職員全員が傾聴し共感することで安心感につながっている ・自宅での介護に限界が来たときは事業所での看取りに変更することが可能である為変更する方も多くいる

番号	評価項目	実施状況	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		各職の連携が出来ている。 希望された場合は適切に対応している。 他職種が共同して支援する事で看取りに 対するニーズに沿えている。	